

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第3部課程第115期）

兵庫県芦屋市 総務部総務室 篠原 隆志

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

「管理職という今の立場になって、自身の日々のマネジメントが適切か。」「部下職員への指導や接し方は、職員の真の成長につながる最善のものか。」「そして、職員一人ひとりの持ち味を存分に発揮できる職場を創り出せているのか。」自問自答を繰り返す機会が多くなりました。また、自治体職員として行政実務に従事するようになってから28年が経過しようとする中、これから自分の自分は、もっと鳥瞰的な視点で仕事を進めていかないといけないと感じることも多くなっていました。そのような矢先に、今回、自治大学校の第3部課程に参加し、自治体幹部職員としての視座と実務力を大きく磨く機会を得ることができたことに大変感謝しております。

2 出会いと研鑽の日々

7月15日から始まった幹部職員を対象とした第3部課程第115期は、北は北海道から南は沖縄県まで、全国から85名の方々が集いました。入校前は、私のような昭和生まれのおっさん管理職がたくさん集まってどのような化学反応が起きるのかと思っていましたが、集まった面々は多士済々、ユーモア溢れる人生経験豊かな方々ばかりで、その日からすぐに意気投合となりました。

第3部課程は、約1ヶ月の間、公共政策課目や地方公共団体を巡る最新の政策課題等についての講義と実践的な演習から構成されており、幹部職員としての政策形成能力

の増進と知見の涵養につながるカリキュラムが多くありました。

特に私の中で印象に残った講義の1つ「トップマネジメントとリーダーシップ」をご紹介します。この講義は、幹部職員として持つべき視点について改めて考えさせられる内容でした。

1つ目は、経営の視点が欠かせないということです。講師のおっしゃる経営の視点とは、目的、想い、夢を持ち、総合計画や戦略指針、人材育成・確保基本方針などの構想、道筋を立てて、それを組織として実行して、成果を出すことである。成果を出す、そこまでやりきることが幹部職員には求められているということでした。

2つ目は、リーダーシップを発揮することです。マネジメントは「管理」、リーダーシップは「支援」。私たち管理職は、部下を管理しているだけでは不十分であるということでした。また、幹部職員としてリーダーシップを発揮するためには必要な視点も複数教えて頂きました。

3つ目は、部下育成のため、上司は教えるのを控えて、もっと質問力（問いかける力）を磨くことです。部下には、繰り返し考えさせて、実践させて、自ら気づかせること、感性を磨くような指導が必要である。ついつい答えを部下に教えてしまいがちになりますが、講師からは「自ら腑に落ちる経験を積ませることが成長につながる。また、おだやかな海では、たくましい船乗りは育たない」ということを改めて教えて頂きました。

いずれも、できそうでできていない半歩先の実務を、日々の業務においてどう実装するか—そういった視点に立つとても濃密

な内容の講義でした。

また、政策形成、行財政、DX、人事・組織マネジメント、住民参画、危機管理、環境施策、福祉施策、地域づくりなど、すべての講義が2040年以降の人口減少社会を前提とした内容でした。そのような講義を受ける中で、持続可能な行財政運営の在り方を見据えた政策を立案、実行していくためには、自らの更なる行動変容が必要と痛感させられる講義も数多くありました。

また、何といっても自治大学校の一番素晴らしいところは、講義の外でも全国から集まつた一期一会の縁で結ばれた仲間と、お酒を酌み交わしながら意見を交わせるというところです。連日の夜の懇親会では、講義で聞いた最先端の取組みを既に実践している自治体の事例を聞かせていただくこともありました。また、行政文化や地域課題の差異を肌で感じることができ、「うちの自治体の常識は、よその非常識、逆もまた真なり」と感じさせられる貴重な経験も数多くありました。互いの胸のうちを明かし、日々の業務で苦慮していること、悩んでいることを話す機会も多くありました。そのような時間を過ごす中、50歳を過ぎた自分がこの自治大学校で学ぶ価値があったと、身に染みて感じました。

特に私の所属した洗心寮3階の仲間たちは、多士済々の面々が集い、いい意味でも悪い意味でも(笑)大変勉強させていただくことが多く、私の今後の貴重な糧となりました。

このような連日の講義と夜の懇親会によって降り注がれる「知」と「お酒」のシャワーはとても心地よく、時には脳と体が飽和状態になるほどでした。資料の厚さよりも議論の厚さに(時には薄いこともありました…)、そして議論の厚さよりも夜の懇親会の深さに驚く毎日、研修が終わる頃には、体重は微増、しかし、私の視野は確実に広が

っていました。

3 結びに

あつという間に過ぎた約1か月でしたが、研修が終了してから3か月が過ぎました。思い返せば返すほど、今も感謝の気持ちで一杯です。

私を快く送り出してくださった職場の皆さん、そして人事課の皆さん、また、自治大学校では、的井校長、課程担当の福井さんをはじめ多くの教職員の方々に大変お世話になりました。土日には、浅草や高尾山など様々な観光の企画をしてくださった皆さん、本当に感謝の気持ちで一杯です。

最後に、毎日、学び、語り、笑い、寝食酒を共にした愛すべき洗心寮3階の仲間たち、そして第115期生の皆さんへ、心より感謝申し上げます。

また、きっと、この一期一会の続きを語り合いましょう！

みんなの想いを書き込んだバッグ

